

令和7年度 第4回牧区地域協議会

日時：令和7年7月31日（木）

午後6時30分～

会場：牧区総合事務所 3階 301会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 報告事項

(1) 「諮問第100号 牧中学校の廃止について」の市長への答申結果について ・資料No. 1

(2) 令和7年度地区懇談会の開催について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料No. 2

4 自主的な審議

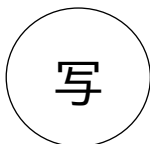
(1) 令和7年度4区地域協議会委員合同研修会の開催結果について・・・・・・・・・・資料No. 3

(2) あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について・・・・・・・・・・資料No. 4

5 その他（連絡事項）

(1) 次回会議の開催予定日について

6 閉 会



資料No.1

令和7年6月25日

(宛先) 上越市長

牧区地域協議会
会長 西 山 新 平

牧中学校の廃止について（答申）

令和7年6月19日付け上教総第438号で諮問のあった、諮問第100号 牧中学校の廃止について、地域住民の生活に支障はないものと認めます。

上教総第 5 3 5 号
令和 7 年 7 月 1 4 日

牧区地域協議会
会 長 西 山 新 平 様

上越市長 中 川 幹 太
(教育委員会教育総務課)

牧中学校の廃止について（通知）

令和 7 年 6 月 2 5 日付けで答申のあった諮問第 1 0 0 号：牧中学校の廃止について、下記のとおりとします。

記

諮問のとおり、牧中学校を令和 9 年 3 月 3 1 日付けで廃止することとし、市議会に所要の条例案を提出します。

今後の市政運営に生かすため、牧区に暮らす市民から地域の課題等を聞き取るとともに、市民の関心が高いと思われるトピックス等についての意見交換を行う「地区懇談会」を、これまでの開催状況を踏まえた見直しを行った上で、次のとおり開催する予定としています。

○ 令和7年度開催内容(予定)

項目	内容
総合事務所からの連絡事項	1. 市営バス(予約型コミュニティバス)の利用について – 無料乗車券(1回分)の配付 2. 令和8年度地域独自の予算事業について – 継続事業の補助率据え置きや提案期限について
話題提供	○ あらゆる人が安全・安心に住みたい「牧づくり」について ・ 地域活性化の方向性について ・ 「体験・移住」「農業・林業」「外出支援」(三本柱)の議論と取組状況について
意見交換(フリートーク)	・ 三本柱で今後必要と思われる取組のほか、様々な地域課題について自由に意見交換

○ 開催スケジュール(下線部分 前回から変更)

開催日時	会場	対象町内会	世帯数	R6 参加人数
8月5日(火) 19:00~20:00	<u>原生活改善センター</u> (<u>原集会所</u>)	(原地区)上昆子、下湯谷、桜滝、棚広、倉下、原、上牧、府殿	98	11
	<u>棚広新田集会所</u>	(白峰地区)棚広新田、宇津俣	15	8
8月6日(水) 19:00~20:00	川上会館	(川上地区)高谷、切光、泉、今清水、片町	52	12
	沖見会館	(沖見地区)七森、平山、神谷、平方、坪山、大月、川井沢、池舟	84	9
8月7日(木) 19:00~20:00	牧コミュニティプラザ	(牧地区)宮口、山口、荒井、東荒井、柳島、東松ノ木、小川、雨露、国川、岩神、田島、下昆子、檜谷、落田、高尾	332	33
計5回			581	73

牧区の豊かな自然がもたらす多様な資源をいかして、
活力と魅力あふれる牧づくりを目指します。

おいしい水の恵みのPR



米



雪下キャベツ



どぶろく

樹木を活用した特産品の企画



イタヤカエデ



メープルシロップ

豊富にある山の食材の活用



ヨモギ



ウド

地域のお宝(構成要素)

四季折々に合わせた
イベントの開催



棚田のきらめき



まき深山のともしび

大自然の中の宿泊施設、
公共施設の利用促進



牧湯の里深山荘



歴史民俗資料館

子どもから高齢者までが生きがいをも
って暮らせる地域づくりの推進



イベントに参加する区外家族



来訪者とのお茶飲み

自主的審議事項「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』について」で地域課題にて抽出

体験・移住

【目標】

- 豊かな自然と暮らしの体験を通じて、牧区を広く知ってもらい、地域の人と触れ合う機会を創出し、空き家を活用した移住促進を図る。

- ①利用できる空き家の情報収集（町内会長を通じて聞き取り等）
- ②体験メニューの検討
- ③体験受入体制の検討
- ④区内巡回体験ツアープログラム計画、区内施設の有効活用
- ⑤体験ツアー参加者の宿泊先検討
- ⑥地域の情報発信（イベント、風景、人、食）

- ・ R6.11にふるさと納税をテーマにした地域協議会委員研修会の開催（区紹介動画の作成）
- ・ 区内交流施設の視察
- ・ 地域協議会委員と区内関係団体による意見交換会の開催
⇒団体相互連携の重要性を確認
- ・ 定住支援コーディネーターの設置によるUIターン者の呼び込みと定住支援

農業・林業

【目標】

- ・ 牧区の農地を守るため、中心となる担い手を確保する。
- ・ 牧区の特産品及びメープルシロップの商品化を目指す。

- <農業>
- ①担い手（個人経営農家）による検討会の開催
 - ②新たな組織体制づくりに向けた学習会及び講演会を実施
 - ③区内の組織体制の検討
- <メープルシロップ>
- ①事業内容について説明
 - ②商品化及び雇用の場としての検討
 - ③イタヤカエデの植栽
- <林業>
- ①根曲がり杉活用事業

- ・ 地域協議会委員と区内の認定農業者や生産組織との意見交換会を開催
- ・ R6.10にイタヤカエデ啓発イベントを開催（地域独自の予算事業）
- ・ イタヤカエデ樹液やメープルシロップをふるさと納税返礼品に新たに登録

外出支援

【目標】

- ・ 高齢者等が地域で安心して暮らせるための外出支援を強化する。

- ①コミュニティバス活用の通知
- ②買い物支援事業拡大の検討
- ③JA店舗の存続に向けて協議（地場産販売スペース設置等）

- ・ 令和5年4月から本格運行している予約型コミュニティバスの利用方法を区内広報や地区懇談会などで重ねて周知
- ・ NPO法人牧振興会が、高齢者等の外出をドア・ツー・ドアで支援する「高齢者の生活支援事業」を展開（地域独自の予算事業）

必要な取組を効果的かつ持続的に展開していくことをねらい、各取組主体を下支えする“事務局体制”の整備を検討

体験・移住



地域おこし協力隊の導入に向けた話合いの支援



区内にある交流施設の視察・意見交換(地域協議会)



牧区を紹介する動画の作成(地域協議会)



定住支援コーディネーターの任用による情報発信強化

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」



主要な農業者との意見交換(地域協議会)



イタヤカエデの里山づくり講演会の開催



区内特産品のふるさと納税返礼品登録支援

農業・林業



予約型コミュニティバスの本格運行と利用周知



牧振興会による高齢者の生活支援事業

外出支援

- 開催日時 令和7年7月11日(金)15:00～17:15
- 会場 は一とぴあ中郷(中郷区)
- 出席委員数 4区計56人(うち牧区8名)
- 内容
 - ①各区会長報告 – 地域活性化の方向性と取組について
 - ②地域自治推進プロジェクトについての意見交換
 - 市担当課(地域政策課の説明)
 - 各区協議会でのグループ討議(下記)
 - 地域政策課との意見交換
- グループ討議の結果(要約)

検討項目	牧区地域協議会グループ討議結果
①地域自治区の区域	現状維持でよい。
②地域協議会	- 現在の公募公選に団体推薦を加えるとあるが、団体はどのように選定するのか。 - 地域によって色が様々であるので、区ごとに選定する団体に違いがあって良い。 - 女性の意見を取り上げられるように、女性委員の割合が高まるようになってほしい。
③地域の団体(住民組織)	「地域の世話人」として機能できるような体制づくりとこれへの支援が求められる。 - 地域の活動に関わっている人は、その「余暇」で対応しており、専属で関われるような人材が求められる。
④財源支援の仕組み	- 地域活性化の取組は一朝一夕には成果は出ない。市は短期で成果を求めるが、長期的に支援することも必要では。 - 取組の初期段階では特に資金が必要であり、手厚く支援する必要がある。 - スケジュールではR9に設計し、R10から施行とあるが、R9から現行の支援施策を見直すように前倒してほしい。
⑤総合事務所	地域を支える組織であり、今より職員数が減らないように配慮してほしい。

審議の目的

- 3月・6月に実施した区内団体との意見交換会を通じて得られた様々な意見を集約・分析し、今後の牧区地域協議会における審議や取組の方向性を検討する。

意見交換会の総括

1. 意見交換会の開催状況

- (1) 農業・林業及び若者女性・体験移住に係る団体との意見交換会
 - ・ 開催日時 令和7年3月19日(水)19:00～20:30
 - ・ 参加団体 農業・林業 牧農業生産組織連絡協議会(4名) / 牧認定農業者連絡協議会(3名)
若者女性・体験移住 まきにいる(3名) / 越後田舎体験牧・清里・板倉協議会(2名)
 - ・ 地域協議会 委員11名・事務局5名
- (2) 牧振興会及び牧農林業振興公社との意見交換会
 - ・ 開催日時 令和7年6月19日(木)19:15～20:30
 - ・ 参加団体 特定非営利活動法人牧振興会(13名) / 公益財団法人牧農林業振興公社(2名)
 - ・ 地域協議会 委員11名・事務局5名

2. 意見交換会で出された意見の区分別要約

地域課題の 区分	出された主な意見(要約)
体験・移住	・ 自らの取組自体に意義は感じているが、高齢化、資金難、多忙などの理由から、なかなか思うような活動になっていない。自分たちだけでは厳しいが、若い世代や牧区以外の色々な人たちとのつながりができれば、活動の継続やさらなる発展にも道筋がつけられると期待している。 ・ 情報発信が大事だが、若い人でもメディアに疎い人はいる。チームでの情報発信体制整備が大事。 ・ 十日町市や信濃町など、実績のある地域の事例を参考にしてみたい。 ・ 来てくれれば誰でも良いというわけではなく、町内会の決まりを守る人でないと困る。
農業・林業	・ 高齢化や後継者不足で生産組織の解散が相次いだり、個人の農家もやめてしまう人が少なくない。 ・ 以前は集落内でお茶飲みすることが情報交換だったが、今はそれもなかなかできていない。 ・ 機械の共同利用ができれば良いが、理想論の域を出ない。草刈りや水管理などの中間管理を個人や集落で担う協力体制ができれば、農業の維持につながるのでは。
外出支援	・ 土日・牧区外への運行を含むコミュニティバスの導入検討、移動支援に必要な車両の確保、ライドシェアや代替手段の検討が必要では。高齢者だけでなく、地域の中学生の居場所づくりも必要である。 ・ 一人暮らし高齢者の見守りや定期連絡体制の整備も考える必要がある。
下支え体制 の整備	・ 下支えする中間支援組織(制度的・人的支援)の整備は必要であり、その議論があることを評価したい。 ・ 住民組織の活動への無関心を変えていくことが鍵で、役割が重なっている参加者の負担を分散させる必要がある。地域内での情報共有をしっかりとっていくことも重要。 ・ 行政への提言や支援体制づくりについて、地域協議会には期待している。 ・ 農業を続けていくため、人などの資源配分をするコントロールセンターが必要かもしれない。

意見交換会の振り返り・まとめ(案)

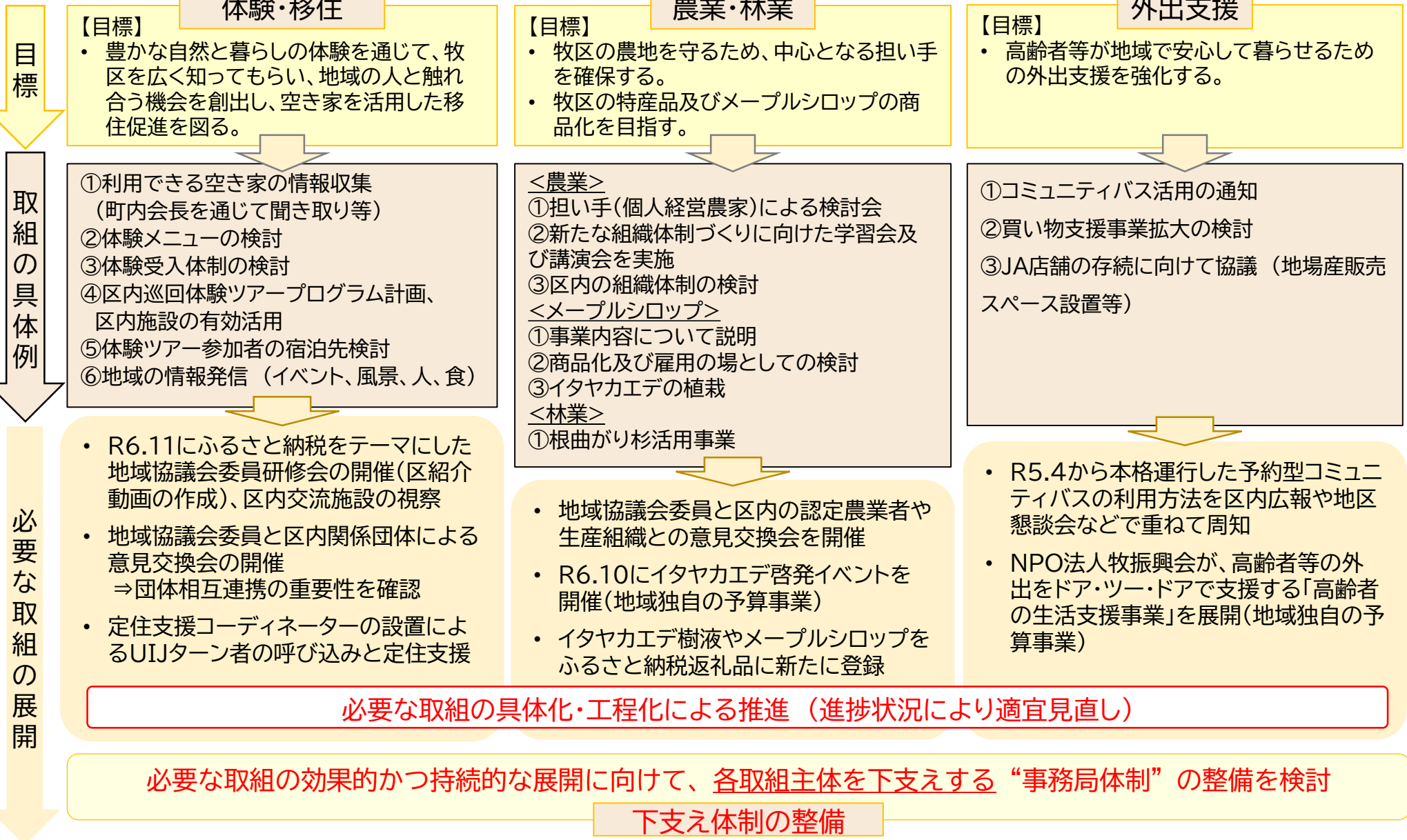
- ・ 牧区地域協議会が現時点の考えとして提起した「農村RMO」のような「下支え体制の整備」については、中間支援体制の整備自体を必要とする声もあったが、全体的にはこれへの意見や感想は少なく、比較的理解がしにくい話題であったと思われる。
- ・ 一方で、各団体からは人口減少や高齢化を受けた取組の持続性への懸念が揃って示されており、地域にとって重要な取組を持続的かつ効果的にするための「下支え体制の整備」は引き続き検討する意義があると考えられる。
- ・ 本意見交換会を通じ、各団体が考える理想的な姿やこれへの支障となる課題、それへの対応策・希望支援策もさまざまに示されたところであり、地域課題である「体験・移住」「農業・林業」「外出支援」(いわゆる「三本柱」)を解決するための取組の具体化検討と地域における推進を図るとともに、「下支え体制の整備」の在り方を検討し、地域との議論を行っていく。



今後の取組方向性

- ◎ 地域課題の解決に向けた考え方を整理し、「三本柱」の推進に合わせて「下支え体制の整備」を加える。(P4)
- ◎ これまでの取組や意見交換会で得られた声を踏まえ、「三本柱」を推進するための取組を具体化・工程化し、その取組主体となり得る団体等との調整を行う。
- ◎ 地域協議会で具体化・工程化した取組の進捗状況を共有し、適宜の見直しを行う。

自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について



3 取組の具体化検討シート

地域課題の 区分	必要と考えられる取組
体験・移住	
農業・林業	
外出支援	
下支え体制 の整備	

【参考】 上越市採用2年目職員ステップアップ研修 地域協議会委員との意見交換(令和7年7月9日)

➤ 出席した地域協議会委員の感想

- 「牧区の人には明るくて気さくだ」という声があって住民としてうれしかった。
- そば打ちなどの体験プログラムをPRすれば、牧区にまた人が集まるのではというアイデアがあった。
- 牧を知らない人向けに、交流人口を増やすようなプログラムができればという声ももらった。
- 若い皆さんと話をできたことが良かった。
- 行政職員として、法令を遵守するということを大事にしてほしい。
- 地域と行政との距離が近いという声が印象的であった。牧を忘れずに、成長していったほしい。
- 山と海は切っても切れない関係という話をさせてもらった。牧には山があり、山を生かしていく必要性について話をさせてもらった。視野を広く持って、自分の信念を持って発言できるように成長してほしい。
- 山があるから水がある、水があるから産業がある。中山間地域の資源をどう守るかということを若い職員の方々に意識してほしい。

➤ 受講職員の感想

- 山があるから水がきれいになっていくという話を聞き、大事な山の資源を生かすのはどうすれば良いか考える機会になった。
- 牧区の方の話をたくさん聞けてうれしかった。職員として力になるにはどうすれば良いか考えていきたい。
- 人口減少や高齢化のデータを見て、元気がない地域なのかと思っていたが、素晴らしい棚田の風景や地域の方々の温かみに触れて、牧っていいなと思った。
- 日頃、机の上での仕事为中心で地域の方の声を聞く機会が少ない。貴重な話を色々と聞くことができ、本当に良かった。総合事務所と地域の方との距離感が近いとも感じた。